

宮城山岳通信第14号

目次

巻頭言	富塚和衛・・・1～2頁
宮城支部創立60周年記念行事の開催案内	遠藤銀朗・・・2～3頁
定例役員会報告	事務局・・・3～4頁
宮城支部山行報告	
☆第6回親子登山教室（戸神山）（公益事業山行）	佐藤昭次郎・・・4～5頁
☆夏山遠征山行（兼）山の日記念山行（立山縦走）（共益事業山行）	富塚和衛・・・5～6頁
山行以外の宮城支部行事開催報告	
☆JAC宮城支部2018ビールパーティー	木皿 謙・・・6～7頁
宮城支部以外の日本山岳会関係行事参加報告	
☆第34回全国支部懇談会参加報告	富塚和衛・・・7頁
☆第34回東北・北海道地区集会参加報告	富塚和衛・・・7～8頁
平成30年7月～平成30年10月の行事予定	事務局・・・8頁

巻頭言

中華民国山岳協会との交流の足跡

支部長 富塚和衛

宮城支部は今年度で創立60周年になる。その記念事業の一つとして、宮城支部では中華民国山岳協会の支援・協力を得て「台湾玉山登山」を実施することになった。これも、これまでに先人達が培ってきた中華民国山岳協会との交流があったればこそその事と思える。特に、宮城支部と中華民国山岳協会との交流は、平沢亀一郎名誉会員（以下寿翁と言う。）との関わりが大きい。寿翁は戦前台湾総督府に就職し、約30年間の長きに渡り殖産振興の仕事に携わった。その間、山を愛する寿翁は、台湾の山々に登り、遂には中華民国山岳協会の設立に多大な役割を果たしたのである。

終戦を機に寿翁は仙台に引き上げてきたが、山を愛する心は変わらず日本山岳会宮城支部に会員として籍を置いた。然し、寿翁は、引き上げ時の辛苦に時には台湾を恨めしく思う事もあったようで、台湾との音信は途絶えてしまった。

昭和37年(1962)に中華民国山岳協会一行が登山のため来日した折、日本山岳会の歓迎スキー集会在蔵王の宮城側カモシカ温泉で行われた。この時、寿翁が健在で仙台に住まいしている

事を知り、台湾に戻ってから寿翁の事を山仲間に伝えた。これが発端となり宮城支部（寿翁個人）と中華民国山岳協会の交流が始まった。

昭和52年(1977)に、寿翁が出身大学である北海道大学創基百年祭招待の際、北海道支部が歓迎会を開いてくれた折に訪台の要請があり、結果として北大名誉教授の佐々博士と寿翁を中心に宮城支部、北海道支部合同の登山隊26名が訪台した。これが宮城支部としての最初の交流となる。

直近では、平成8年(1996)の西郡元支部長を隊長に9名が玉山登山を行っている。平成28年(2016)には、故田部井淳子氏主宰の東北応援プロジェクト(福島県沼尻高原)に参加した中華民国山岳協会顧問張玉龍氏一行7名が来仙し、20年ぶりに親交を深めた。その折の張玉龍顧問からの訪台のお誘いもあり、今年10月に、宮城支部としては22年ぶりに「宮城支部創立60周年記念玉山登山」として実施する予定になっている。登山隊の一行には寿翁の孫娘さんが参加する。これも長い交流の歴史を物語るのではと思われるが、将来に向けても周年などの節目の年を機に交流が続くことを期待したものである。

宮城支部創立60周年記念行事の開催案内

宮城支部創立60周年記念事業特別委員会委員長 遠藤銀朗

宮城支部創立60周年を迎え本年10月と11月に下記の記念山行と記念行事が開催されます。会員・会友の皆さんのご参加をよろしく願いいたします。

(1) 宮城支部創立60周年記念台湾玉山登山 (参加申し込みの受け付け終了)

- 1) 実施期間 平成30年10月9日(火)～15日(月)
- 2) 移動手段 仙台⇄台湾(ピーチ航空) 台湾国内移動(貸切バス)
- 3) 日程 10月9日(火) 仙台空港⇒台湾桃園国際空港(台北市内泊)
10月10日(水) 竹子湖蓬萊米原種田故事館、阿里山観光(阿里山泊)
10月11日(木) **玉山登山開始**(排雲山荘泊)
10月12日(金) **玉山山頂**(3,952m)、**下山**(東埔温泉泊)
10月13日(土) 日月潭、紹興酒工場観光(台北市内泊)
10月14日(日) 故宮博物館、龍山寺観光(台北市内泊)
10月15日(月) 台湾桃園国際空港⇒仙台空港(解散)

(2) 支部創立60周年記念講演会・祝賀会・祝賀山行 (参加申し込み受け付け中)

- 1) 開催日時 2018年11月17日(土)～18日(日)
- 2) 会場 「茂庭荘」
仙台市太白区茂庭字人來田西143-3 ☎022-245-5141
- 3) 参加費 14,000円(講演会・祝宴参加費、宿泊費、登山時の昼食・飲み物代を含む)
(ただし、講演会のみ参加者は無料、当日受付にて徴収させていただきます。)
- 4) 日程および行事内容
【初日】 11月17日(土)
 - ① 受付 13:00 参加者受付開始(茂庭荘ロビー)
 - ② 60周年記念講演会の部 14:00～16:00
(1) 演題:「寒さと人体—山での遭難を避けるために—」

講師：大江洋文氏

医師（外科学会専門医）、認定国際山岳医、仙合一高山の会会員、
東北大学医学部ワンデルング会OB、第54次及び第58次南極越冬隊員

(2) 演題：「登山活動の安全管理の基礎～山岳会の指導者として」

講師：渡邊雄二氏

公益社団法人日本山岳会栃木支部長、前国立登山研修所所長

1975年マカルー登山隊、1988年三国友好登山隊

③ 60周年記念祝賀会の部 18:00～20:00

(1) 式辞：宮城支部長

(2) 祝辞：日本山岳会本部来賓

(3) 祝宴

(茂庭荘宿泊)

【二日目】 11月18日(日)

④ 60周年記念祝賀山行の部：

対象山域 太白山(320.7m) (仙台市を象徴する山の一つです)

行程 10:00茂庭荘出発(徒歩) → (仙台市ガス局茂庭給油所下林道經由
→11:00生出森八幡神社下太白山登山道入口→11:30太白山山頂到着

(祝賀山行宣言、記念写真撮影、昼食休憩)

12:30下山開始(登りと同ルートにより下山)

13:45茂庭荘帰着(参加者全員帰着後解散)

定例役員会議事録

☆ 平成30年7月定例役員会議事録

日時：7月11日(水)18:30～20:30

場所：仙台市シルバーセンター5F会議室

出席者：富塚支部長、遠藤副支部長、千葉、
草野、柴崎、松田、鈴木、木皿、富塚(真)

計9名

《報告事項》

(1) 総務・財務委員会からの報告

①山岳関係機関からの受理状況

・年次晩餐会出展参加申込みについて

・登山計画書(富山支部)の例について

(2) 山行集会委員会からの報告

①第6回親子登山教室実施結果報告

(3) 自然保護・科学委員会からの報告

①自然保護全国集会参加報告

(4) 会報編集出版委員会からの報告

①宮城山岳通信第13号発行報告

(5) 支部創立60周年記念特別委員会からの報告

①記念祝賀会&記念祝賀登山の実施体制
《審議事項》

①年次晩餐会展示出展方針について

・関係者と十分調整の上、「宮城支部と中
華民国山岳協会の交流の足跡」と題して
写真を中心に展示することについて了
承。

②創立60周年記念式典等の次第について

・特別委員会事務局提出の「日本山岳会宮
城支部創立60周年祝賀会実施内容(案)」
を了承。

③第35回東北・北海道地区集会の受諾につ

いて

- ・正式に受諾を役員会として意思決定
- ④平成 30 年度世界谷地湿原保全作業について
- ・昨年度の宮城県への回答依頼に対して世界谷地湿原保全調査結果の公表等の宮城県からの具体的な報告がなされていないことから、再度これを求める内容で文書回答することを了承。
- 《その他》
- ①古稀記念着衣贈呈について
 - ②「納涼ビールパーティー」の開催案内について
 - ③支部創立 60 周年記念手拭い製作について
(事務局報告)

☆ 平成 30 年 9 月定例役員会議事録

日 時：9 月 19 日(水)18:30~20:30
場 所：仙台市シバセンター 5F 会議室
出席者：富塚（和）支部長、遠藤副支部長、佐藤（昭）、高橋、草野、松田、千石、富塚（真）
計 8 名

《報告事項》

- (1) 総務・財務委員会からの報告
- ①山岳関係機関からの受理状況
 - ・平成 30 年度支部運営交付金について
 - ・平成 30 年度支部合同会議議題について
 - ・支部事業等に関するアンケートにつて
 - ・第 34 回全国支部懇談会（北海道支部）

参加報告

- ・第 34 回東北・北海道地区集会（山形支部）

参加報告

- (2) 山行集会委員会からの報告
 - ①夏山山行（立山）実施結果
 - ②沢登山行（中止した旨報告）
 - (3) 会報編集出版委員会からの報告
 - ①宮城山岳通信第 14 号の発行について
 - (4) 支部創立 60 周年記念特別委員会からの報告
 - ①支部創立 60 周年記念玉山登山第 2 回打合せ実施結果報告
 - (5) 他委員会等からの報告
 - ①納涼ビールパーティー実施結果報告
- 《審議事項》
- ①支部創立 60 周年記念祝賀会・祝賀登山実施内容の確定について
 - ・支部創立 60 周年記念特別委員会事務局長から資料に基づき実施内容を説明、了承される。
 - ・参加者の確保については、さらに努力を要することから、事務局長を中心に対応策を検討の上、実施する事について了承。宿泊者 40 名、記念講演 60 名を目標に。
- 《その他》
- ①退会情報について
 - ②登山計画書に係る取扱い基準について
 - ・見直しについて次回役員会で審議することとした
- (事務局報告)

宮城支部山行報告

☆第 6 回親子登山教室（戸神山）

（公益事業山行）

- ・実施日：平成 30 年 7 月 8 日(日)

- ・山 域：仙台市太白区、戸神山(504m)
- ・コース：仙台市広瀬文化センター（集合）→戸神山登山口→表・裏登山道分岐点→裏コース→女戸神山山頂→鞍部→男戸神山山頂→表コース→表・裏登山道分岐点

→戸神山登山口→仙台市広瀬文化センター（解散）

- ・参加者：（会員）富塚和衛、佐藤昭次郎、草野洋一、富塚真味子、遠藤銀朗、横山哲（会友）針生紀子、鳥田伊志、白田昭一（応募参加者）9家族の申し込みあり。ただし当日2家族のキャンセルにより、7家族21名（親および祖父母10名、子供および孫11名で催行）
- ・報告者：佐藤昭次郎

平成30年7月8日に、仙台市教育委員会の後援と組の家族（親子）の参加を得て第6回親子登山教室を開催した。公的後援を受けたことと、それを有効に活用して市内の幾つかの小学校に参加を働きかけたことで、今回の支部公益事業としての親子登山教室は多くの参加者を得ることができた。

実施当日は、8:30に仙台市広瀬文化センター前駐車場に集合して、車分乗により白沢峠の登山口に向かった。好条件での山行となり、男戸神山山頂から仙台市街や蔵王連邦を一望できるなど、結果的には天候に恵まれた親子登山教室となった。

登山開始に先立ち登山口から少し入った広場を利用して、親子登山教室として2つの親子向け授業（授業テーマ「安全に山に登るために」（草野会員担当）および「熊さんに会わないために、もし熊さんに会ったなら」（遠藤会員担当））と準備体操講習（富塚真味子会員担当）を実施した。

その後、9:45に登山を開始し、裏コースを進み11:15に女戸神山山頂に到着した。ここで休憩の後、さらに女戸神山・男戸神山の鞍部を経て11:45に目的地である男戸神山山頂に登頂した。男戸神山山頂にて昼食休憩をとるとともに、3つ目となる親子向け授業（授業テーマ「戸神山の名前の由来」（遠藤会員担当））を行った。

参加者全員で記念撮影をした後に、12:25に下山を開始。前述の鞍部から表コースを下山し、13:00に戸神山表コース・裏コース分岐点到着した。この分岐点で休憩時間をとるとともに、分岐点広場にて安全を図りながら

子供たちの急坂登りと急坂ロープ下りの体験トレーニング教室を開催した。この急坂登り下り体験は、参加した子供達にとって身体の安全を確保しながら急坂を登ったり下ったりするための知識と技術を、体全身で楽しみながら実践的に学ぶよい機会になったと思われる。

14:00に登山口まで下山し、仙台市広瀬文化センターに戻り解散式を行い、14:20に第6回親子登山教室の全日程を終了した。

いずれ次世代を担うことになる子供たちが、山という自然と触れ合うことに興味を持ち、将来登山の楽しみと登山文化を受け継いでいくよい切っ掛けになったのではと思われる。今回の登山教室で子供達が山という自然を自分から進んで楽しんでいる姿を見て、次世代を担う子供達のために教育的要素も大切にしたい登山教室を開催することは今後必要であると実感した。

☆ 夏山遠征登山 兼 「山の日」記念

山行（立山連峰）

（公益事業山行）

- ・実施日：8月3日（金）～5日（日）
- ・山 域：立山連峰
- ・コース：室堂ターミナル→浄土山→一の越山荘→雄山→大汝山→富士ノ折立→真砂岳→別山→剣御前小舎→雷鳥沢ヒュッテ→室堂ターミナル
- ・参加者：（会員）草野洋一、遠藤銀朗、富塚真味子、富塚和衛、（支部友会員）蔭山美緒子、針生紀子、多田孝徳、佐藤富士子（一般）齋藤みち子（計9名）
- ・報告者：富塚和衛

夏山遠征登山は、これまで7月下旬に実施して来た。然し、天候に恵まれずにいた。そこで、今年は8月上旬に時期をずらし実施した。これが見事に的中し、好天の下での山旅を楽しむ事が出来た。

★8月3日（金）

6:00 仙台駅東口駐車場に集合。2台の車に分乗し立山駅に向かう。出発前に駆け付けた山行集会委員長から「トマト」の饞別を頂く。途中のSAで朝食、昼食を摂り、立山駅へ。ケーブルカー、シャトルバスを乗り継ぎ、日本三霊山に名を連ねる立山の山々が眼前に迫る室堂平に到着する。途中、車窓から日本一の落差を誇る称名の滝を眼下に望む。

室堂ターミナルで山支度を整え、立山の名水「玉殿の湧水」で喉を潤し登山を開始する。1日目のコースは、立山三山の一峰でもある浄土山（2,831m）の山頂を踏み一の越山荘まで。左手の青空に映える立山の峰々の観望は参加者から歓声が上がるほどの絶景だ。30分ほど山岳風景を楽しむ。山荘では、持ち寄った食材を摘みながら談笑に時を過ごし1日目を終えた。

★8月4日（土）

2日目も山行には申し分ない天候だ。朝食を済まし、7:00に雄山（3,003m）を目指す。朝の登りは身体に堪えるが1時間程で雄山山頂に到着。雄山神社峰本社でお祓いを受けた後、最高峰の大汝山（3,015m）に向かう。左に山崎カールを見下ろし岩伝いの稜線を進む。程なく山頂に辿り着く。後立山の山々を背後に黒部湖が東に、北に剣岳が、そして西には光る水面を点在させる室堂平が目に入る。将に、日本を代表する山岳風景だ。富士ノ折立（2,999m）、真砂岳（2,861m）の山頂を踏み、硯ヶ池に辿り着いたのはお昼時刻。皆で山小屋のおにぎりを頬張り昼食を摂る。食後、ザッ

クをデボして別山（2,860m）を往復する。別山山頂からは岩塊が峻しい迫り上がりを見せる剣岳が目と鼻の先だ。長次郎谷や平蔵谷の雪渓が剣の岩肌と相まって見栄えする。

硯ヶ池に引き返し、最後の稜線歩きとなる剣御前小舎へと向かう。小舎からは雷鳥坂を一気に雷鳥沢へと下る。キャンプ場を過ごし今宵の宿、雷鳥沢ヒュッテに着いたのは、16時少し前。約9時間の立山連峰の稜線歩きだった。ヒュッテは温泉付きの宿。一日の汗を流し、岩稜の逍遥を思い出しつつ語り合いながら夕食を摂り、素晴らしい山旅の一日を締めくくった。残念ながら酒宴とはならなかったが。

★8月5日（日）

最終日、今日も天気晴朗だ。ゆっくり目の朝食を頂き帰路に着く。1時間程かけて室堂平へと登る。朝一番の登りは何時もきついつと感じる。みくりが池の脇を通り室堂平の散策を楽しむ。散策路正面には昨日縦走した立山の山々が聳え立つ。立山室堂山荘でコーヒータム。標高2,500mの高地で飲むコーヒーマもオツなものだ。

室堂ターミナルから立山駅に戻り、帰仙の途に就く。途中、富山の知人お薦めのレストラン「プ・モリ（エベレスト街道のカラ・パターナル近くの山名）」で野菜たっぷりのカレーを頂き、平成30年度の夏山遠征登山は終焉となった。後に、参加者数名から素晴らしい山旅が経験できたとの手紙が届いたのには恐縮至極だった。

山行以外の宮城支部行事開催報告

☆JAC 宮城支部 2018 ビールパーティー

報告者：木皿 謙

ダントツに暑かった今年の夏でしたが、その暑さを吹き飛ばす勢いで今年も宮城支部ビールパーティーが、例年通り仙台駅近くの

ホテルJALシティで賑やかに開かれました。参加者は総勢13名、人数は若干少なく

で残念なような気も致しましたが、盛り上がりは決して例年に劣るようなことはありませんでした。

俗にドタキャンと言う言葉がありますが今

回はその反対で、宇都宮会員が突然参加（結論は当方の申し込み受付の整理ミスでした）。驚きとともに開会前から一層賑やかになりました。賑やかに宇都宮会員の乾杯発声で開会致しました。

最近のJAC宮城支部のビールパーティー、人数と予算の関係で雑然とした部屋しか与えられず、もう少し落ち着いた雰囲気の会場

を希望していますが、思い通りに行かずそこが聊か心残りでした。それでも、そんなことはどこ吹く風、参加会員の近況報告などがあった、定刻8時無事終了、次回の参会を楽しみに解散いたしました。参加会員のご協力に感謝致します。

宮城支部以外の日本山岳会関係行事参加報告

☆ 第34回全国支部懇談会参加報告

参加者；富塚支部長、千葉正道、富塚真味子（以上会員）、山口千賀子（支部友会員）

報告者；富塚和衛

平成30年7月21日（土）～22日（日）の2日間、第34回公益社団法人日本山岳会全国支部懇談会が層雲峡温泉（上川町）の「層雲閣グランドホテル」を会場に行われ、これに参加したので報告する。全国28支部、約190名が、宮城支部からは4名が参加した。

【1日目】

●開会式 西山北海道支部長歓迎挨拶
小林会長挨拶

●記念講演

「母なる大地、大雪山に魅せられて～その魅力を全世界に～」

講師 市根井孝悦（山岳写真家、層雲峡・大雪山写真ミュージアム館長、日本山岳会員）

（概要）60年間に及び大雪山の写真を撮る人生を振り返り、出会った人々の絆をも深め差す大いなる力・魅力を持つ大雪山を選びすぐりの写真により、熱く語られていた。

●懇親会

アイヌ民族舞踊（井沢家三世代）

【2日目】

●交流山行

①Aコース（赤岳～黒岳縦走）

②Bコース（黒岳～黒岳石室往復）

③Cコース（黒岳7合目散策）

（概要）宮城支部は全員Aコースに参加。

6:00 ホテルをバスで出発。7:00、秋田支部と同班で「銀泉登山口」から小雨の中歩き始める。雪渓を数か所越えてコマクサが見ごろの「コマクサ平」へ。其処から霧と強風の中赤岳山頂を目指す。大きな雪渓脇を登り平坦地に出るとその先に赤岳が。更に、石ころがゴロゴロした礫帯の平坦地を進み、白雲岳分岐へ。この頃から天候が回復し大雪山系の雪渓を残す山々が一望できるようになる。分岐から「キバナノシオガマ」が咲く草原帯を行く。12:20 北海岳山頂到着。此処から黒岳山頂までには渡渉が一ヶ所あるが、1時間ほどの行程。山頂から7合目のリフト乗り場まで下り、層雲泉に帰り着いたのは16:00頃。朝方の天候も回復し、素晴らしい「カムイミントラ・神々の遊ぶ庭 花と残雪の大雪山」の山旅だった。

☆ 第34回東北・北海道地区集会参加報告

参加者；富塚支部長、草野洋一、富塚真味子、（以上支部会員）、新井田祐司（準会員）

報告者；富塚和衛

第34回東北・北海道地区集会が9月15日（土）～16日（日）の両日、山形県鶴岡市羽黒町の宿坊「大進坊」を会場に開催された。宮城支部からは支部会員3名、準会員1名の計4名が参加した。

参加者は46名であった。

1日目は15時から受付後、支部長会議があり、第35回(宮城支部)及び第36回(青森支部)での開催が確認された。その後、大進坊大広間で記念講演会が開催された。演題は「出羽三山の歴史と文化」と題し、修験道の先達でもある大進坊坊主早坂真一(明恒)氏から、開山1400年の歴史を誇る出羽三山の魅力や地域に根差した例祭や三山講などの山伏の里で守られ続けてきた伝統的な諸行事、そしてインバウンド(外国人客)、さらには松尾芭蕉から藤沢周平との係わりなどの興味尽きないお話を聞いた。

懇親会では、宿坊らしく精進料理が振舞われ修験者の世界を堪能させてくれるひと時であった。懇親会後半には各支部の紹介、さらに次年度開催支部として挨拶をさせて戴き、酒宴はお開きとなった。

二日目は交流山行の日。登山コース(出羽三山)、ハイキングコース(弥陀ヶ原他)の2コースに分かれて行われた。宮城支部からの参加者は全員が

登山コースを選択した。

早朝に大広間でご祈祷があり、朝食後、登山口である羽黒山八合目(1,380m)までバスで移動する。9時過ぎ、月山山頂に向けて登山を開始する。途中で20名ほどの白装束に身を包んだ女人修験者とすれ違う。2時間弱歩き仏生池小屋(1,740m)に到着する。一休みしてから周囲の広葉樹が色付き始めた緩やかな登山道を池塘が散らばる弥陀ヶ原を見下ろしつつ月山山頂(1,984m)へと歩みを進める。山頂の一等三角点を踏み月山神社の近くで昼食を摂る。昼食後、月山山頂から湯殿山神社を目指し下山を開始する。牛首(1,692m)、金姥(1,622m)を過ぎ装束場(施薬小屋)で一息入れる。此处でドローンの操縦方法等についての説明を野堀山形支部長から聞く。梯子が続く急坂の月光坂を下り、小さな沢を渡ると、湯殿山神社(1,069m)に辿り着く。途中から別行動をとった者を待って、バスで大進坊に戻る。辺りは薄暗くなり時刻は17時を回っていた。11時間の長い交流山行であった。

日本山岳会宮城支部の平成30年10月～平成30年12月の行事予定

◎平成30年10月

☆10月上旬

宮城山岳通信第14号発行

☆10月9日(火)～15日(月)

支部創立60周年記念台湾玉山登山

☆10月24日(水)

定例役員会(仙台シルバーセンター)

◎平成30年11月

☆11月17日(土)～18(日)

支部創立60周年記念講演会・祝賀会・祝賀登山(茂庭荘・太白山)

☆11月28日(水)

定例役員会(仙台シルバーセンター)

◎平成30年12月

☆12月1日(土)

本部年次晩餐会(京王プラザ)

☆12月2日(日)

第7回登山教室(山域未定)

☆12月16日(日)

支部晩餐会(シルバー仙台)

☆12月19日(水)

定例役員会(仙台シルバーセンター)

(事務局)

宮城山岳通信

発行 公益社団法人日本山岳会 宮城支部

発行日 2018年10月12日、 発行人 富塚和衛

編集出版委員 遠藤銀朗、千石信夫、富塚和衛、細川光一、三宅 泰

事務局 983-0821 仙台市宮城野区岩切畑中9-12 Tel・Fax 022-255-7398